

## ルート帯とインターチェンジの位置を検討します

平成15年1月に瓦版でお示した事業者ルート帯案に対して、意見募集や地域懇談会においていただいたご意見をふまえて検討した結果、最終的なルート帯を次のように決めました。

(ルート帯とは?)  
 ルート帯は、概略の位置を示したもので、今後の検討により多少の位置変更も考えられます。また、ルート帯は、おおむね100mの敷地幅で示しています。(最終的な敷地幅は、50~60m程度となります。)

## 今年度検討するルート帯の案を以下に提案します

C区間は、ルート帯の通過位置と、国道41号との接続箇所により、以下の4つの組み合わせが考えられます。

- ① ①-I ~ ②-I  
 ② ①-I ~ ②-II  
 ③ ①-II ~ ②-I  
 ④ ①-II ~ ②-II

### C区間の事業者ルート帯(案)の組み合わせ

	①ルート帯の通過位置	②ルート帯と国道41号(現道)の接続
パターン	I. ①富山笹津線寄りルート	I. 熊野橋手前で接続する
	II. はば(崖線緑地)寄りルート	II. ②富山外郭環状線をこえてから接続する

次のページに各パターンの比較を行っています。ここで示したルート帯案に対するご意見をお聞かせ下さい。(アンケート)



## インターチェンジ設置候補地の概要

- A 春日インターチェンジ(仮称)**
- 総合健康福祉ゾーン付近にあり、将来のまちづくりを支援することができる。
  - 公有地の利用により、インターチェンジ設置にかかる用地費用が節約できる。
  - 主要地方道 富山笹津線に比較的近く、アクセス道路の整備が最小限です。
- B 稲代インターチェンジ(仮称)**
- 一般県道八尾大沢野線が整備されており、アクセス道路を新たに整備する必要がない。
  - 但し、JR高山線交差部の立体化を検討する必要があります。
  - 高内地区工業集積地への連絡が容易となる。
  - 小羽地区住民も利用しやすい。(大沢野大橋に接続する)
- B' 加納インターチェンジ(仮称)**
- 地元からの設置要望がある。
  - 加納企業団地や中心部への連絡が容易となる。
  - アクセス道路を新たに整備する必要があります。
  - はば(崖線緑地)やJRに近いことなどから、構造が複雑になり、他のICと比べ費用がかかる。
- C 塩インターチェンジ(仮称)**
- 新婦スーパー農道が整備されており、アクセス道路を新たに整備する必要がない。
  - 中大久保企業団地への連絡が容易となる。
  - 八尾中核工業団地など、神通川左岸地区との連絡に便利である。
  - はば(崖線緑地)に近く、地形条件に配慮する必要があります。
- D 福居インターチェンジ(仮称)**
- 主要地方道立山山田線が整備されており、アクセス道路を新たに整備する必要がない。
  - 八尾町など、神通川左岸との連絡に便利である。
  - Dは、はば(崖線緑地)に近く、地形条件に配慮する必要があります。
- E 熊野インターチェンジ(仮称)**
- 主要地方道富山外郭環状線が整備されており、アクセス道路を新たに整備する必要がない。
  - 福中町など、神通川左岸との連絡に便利である。
  - 現道(国道41号)と重なり、設計上配慮する必要があります。

※○は利点、●は課題

### 決定済ルート帯(平成14年度までにルート帯を決定しました)

### 今回ルートを検討する区間(大沢野町塩地区~国道41号接続)

